

【論考】

## 現代のホームステイのあり方に関する一考察

### －宿舎は留学生の学習・異文化理解を担えるか－

A Study on Contemporary-Style Homestay: Do Accommodation Styles Determine Learning Outcomes and Inter-cultural Understandings of International Students?

大阪大学 近藤 佐知彦

KONDO Sachihiko

(Osaka University)

キーワード：留学交流、留学生教育、ホームステイ、外国人留学生宿舎

#### 1. はじめに（研究調査の背景と問題意識）

筆者の本務は短期留学生の受入である。

そして外国人学生の受入には魅力的な教育コンテンツと共に、適切な宿舎設備の提供が欠かせない。しかし、一般的な日本の大学にとって留学生宿舎は稀少資源である。

筆者勤務校では、通常の授業カレンダーに準拠しないサマープログラムを設計する際は、学外に宿舎を求めざるを得ない。空室率を下げる経営的観点から、私費や国費の学位取得の留学生もしくはセメスターに準拠した交換留学生などに学内宿舎が割り当てられてしまう。いきおいサマープログラム等では地域の宿舎を活用する必要があるが、インバウンド観光が活性化するに伴ってホテル稼働率も向上し、値段交渉にも一切応じてもらえない状況に陥ってきた。

そのような折に「自学のサマースクール参加学生にはホームステイが出来るよう手配して欲しい」という米国の協定校からの強い意向を受け、地域一般住宅に留学生を寄宿させるタイプの宿舎開拓に目が向いた。協定校では「Homestay Advantage」を期待しているという。彼らが想定するホームステイならではの利点とは、言語習得の加速や異文化理解の促進などではないか、と筆者にも漠然と想像は出来る。ただしそれを具体的に検証ができるものなのだろうか。

また訪日客の増加に伴って民泊が盛んになりつつある。そのなかの一類型として「ホームステイ型民泊」という宿泊カテゴリーも耳にするようになってきた。これも語感としては漠然と理解できるのだが、一般に我々がイメージする留学生のホームステイとはどのように相違するのか。米国協定校が

期待するホームステイと「家主在宅型民泊」「住宅宿泊事業」とを同じカテゴリーで括るのも乱暴だと思われる。ここで一旦原点に戻って「留学生ホームステイ」の概念を整理し、研究に向けての再定義を行い、その文脈でホームステイ研究の方向性を再考するのも無駄でない。そのためにまず先行研究を明らかにし、筆者らがこの夏全国の大学を対象に実施したアンケートの一部を紹介する。そして筆者がコーディネートするプログラムについて参加者を対象に行った予備調査についても報告する。

## 2. 先行研究概観

ホームステイについての研究調査は観光学に関連するものから (Bhuiyan, M. A. H. et al. 2012 など)、自治体が観光振興と地域の多文化受容を意図して調査を行った報告 (港区 2010 など) まで多様である。ただし、筆者自身にとっては「はじめに」で述べたようなホームステイ定義の混乱を整理する必要がある。そのため本稿はツーリズムなどの観点からの調査研究は一旦棚上げをし、またワーキングホリデーによるファームステイといった、なかば商品化された体験型教育旅行には立ち入らない。その一方で、旅行会社と大学との共同研究 (横田 2012) など手がかりとしながら、主として言語学習・異文化理解の観点から留学における「ホームステイの有り様・効用」について整理していく。

### 2.1. 留学生とホームステイの結びつき

数十年前の都会では一般の住宅に間借りをして「下宿」をする地方出身単身者が一般的だった。食事を提供しない間貸しと違って賄い付きもあり、宿舎としての基本的な有り様は現在のホームステイと共通点も多い。なかには勉強が捗るとか都会の言葉が身につく、といった評判の下宿もあったかもしれない。しかし教育関係者によって「Geshuku Advantage」などについて論じられた研究は、寡聞にして、筆者には見つけれなかった。では米国協定校の関係者にとっては当然視されているホームステイの利点とはどのような背景や歴史的経緯に由来するのだろうか。

山口 (2008) によれば「ホームステイ」という言葉が社会的に認知されたのは比較的近年のことである。最初に広辞苑に収録されたのが 1998 年の第五版で「留学生として訪れた学生が、一般家庭に寄留し、その国の習慣や言葉を学び、生活すること」だとされていた。ちなみに 2008 年の第六版では「留学生などが滞在地の家庭に寄宿し、家族の一員として生活すること」とされており、版が変わる 10 年間に「留学生限定」や「学び」の要素が若干薄くなり「家族の一員」がつけ加えられたことは注目したい。同じ広辞苑で「下宿」の項を調べると「やや長い期間を定めて他人の家に部屋住みすること。また、その家」となっており、下宿の定義から抜け落ちているのは「留学生」という宿舎利用主体の限定である。こうして「留学生」や「家族」がホームステイを構成する要素らしいことが伺える。ついでにいえば「ことばの発祥もと思われる欧米圏では、ようやく 2004 年 3 月に、homestay が The Oxford English Dictionary の新出の単語として採択されたばかり」 (山口 2008 p30) だという。

今日的な「ホームステイ」の起源は 1933 年とされる。米国人 Donald Watt が自国の十代の学生たち

を伴ってドイツとオーストリアに渡航し、現地家庭に一人ずつ学生を滞在させて、草の根の国際交流促進を図った教育旅行に起源を発する。Watt によって EIL(The Experiment in International Living) と名付けられた企画は、そもそもは同年輩の学生が居る海外家庭を相互訪問して寝食を共にさせ、若者視点での家族ぐるみの国際交流を目的としていた(山口 2008)。EIL は 1940 年には日本にも米国人学生 4 人を派遣している。開戦前の緊張した日米関係にもかかわらず、当時の新聞紙上では「青畳と味噌汁で味わう“真の日本”。米国から交換息子とお嬢さん達」「碧眼交換娘と息子の見た日本。青畳上の四週間。離京前にさて得た結論は」などと好意的に紹介されている(山口 2012)。このようにホームステイ(もしくは EIL)とは、金銭対価を主目的とする「下宿」や「家主在宅型民泊」などとは次元を異にする社会運動の側面が強い。筆者がビジネスの範疇(例えば民泊や下宿など)でホームステイを分類・議論することに若干の抵抗を感じていたのは、こういった社会運動的なルーツに端を発しているのかもしれない。また広辞苑の「下宿」の項で規定されている「やや長い期間の契約」を勘案すると、その関連概念としてのホームステイは比較的短期間の宿泊とするのが実態に叶っている。結果的に「ホームステイ」とは、金銭以外の対価や社会貢献を主目的としつつ、留学生等を家族として迎え、無償もしくは安価に比較的短期の宿舎を提供する、と仮定義しておく。従って「家主在宅型民泊」との相違点は、家族生活へのコミットメントや「金銭以外の対価」と「留学生等」におくのが妥当であろう。このあたりについては、後節で全国の大学関係者を対象におこなった調査とも関連する。また同アンケートにもその一端があらわれるが、食卓を共に囲む「家族として扱い」もホームステイの一般的なあり方である。ちなみに日本の EIL は公益社団法人日本国際生活体験協会として現在も活動を続けている。

## 2.2. Homestay Advantage (言語習得)

さて、ホームステイならでの利点はどのように考えられてきたか。それについては、第二言語習得の文脈で論じた先行研究が目につく。教室外でも学習言語母語話者に接触する機会が多いホームステイ滞在者は、非母語話者などと共に暮らす留学生寮などに比べ、学習進捗度が高くて当然と考えられがちだからだ。本節では主として米国と日本での研究を参考にしたい。

まず米国人のロシア語学習者を対象とした研究である。Rivers (1998) は 1976 年から 1994 年までの約 18 年間に、米国からロシアに語学留学した 2,529 名の学生の成績をロシアでの宿舎環境と関連づけた。米国人学生のうち 2,224 人が寮に住み、305 人がホームステイだった。そのサンプルに 1994 年から 2 年間について米国人学生 285 名のホームステイ学生のサンプルを加え、1976 年から 18 年間の 2,224 人の寮宿泊者、590 人のホームステイ参加者(ただし 1976 年から 1996 年までの 20 年間)の学習成績を比較している。Rivers によればロシア語 Speaking について、ホームステイ学生は、学寮などの学生に比べて良い成績を残すことが出来ず、Listening に関しても大きなアドバンテージが認

められなかった。その反面 Reading の成績に関してはホームステイ学生が他の宿舎に優越していた。

Rivers 研究は大量のデータを収集検討しており、統計研究として比較的信頼性が高いと考えられる反面、対象期間が 1976 年から 1994 年までの寮とホームステイ、1994 年から 1996 年までのホームステイの足かけ 20 年の長期にわたる。この間のロシアは社会主義ソビエト体制の崩壊といった社会変動を経験しており、調査対象初期と後期では留学制度までが一変している。ホームステイも形態が変遷し意味合いが変わっていたと考えられる。ただしそれらを考慮に入れたにしても、ホームステイ学生の Speaking や Listening の能力が伸び悩んでいたという結果は大方の予想を裏切ったものだった。この結果について Rivers 自身は、宿舎のタイプのみに限らず留学実施前の事前学習など留学を伴う言語習得に影響する重要な要素が他にもいくつもある、と論考している。

Rivers 研究は第二言語習得の枠組みの中で、一般に Homestay Advantage が期待される宿舎環境であったとしても、その成果は成績向上などで短絡的・量的に実証できるものではない、という複雑性を示した。Rivers に続く実証研究の中には、母語話者（ホストファミリー）と一緒に暮らしていたとしても、母語話者が実際の会話よりも「易しい話し方」をしがちであることから、ホームステイした学習者がオーラルコミュニケーションについて伸び悩む例なども報告されている (Iino 2006)。

その一方、外国人の日本語学習に関する報告にもいくつか注目すべきものがある。ホームステイをした学生は比較的学習進捗度が高い、という報告があるからだ。牧野 (1998) などその嚆矢とするが、なかでも興味深いのは鹿浦 (2007, 2008) による報告である。鹿浦は勤務校教務部の協力を得て、ホームステイ、セミナーハウス (寮) および学外のアパートに滞在した外国人交換留学生について、3 年 6 学期間の日本語力の伸びを宿舎タイプとひも付けて比較した。6 学期間では延べ 2,507 のサンプルとなり、データサイズから考えれば Rivers に匹敵する規模となっている。ただし鹿浦報告ではそのサンプル中で重複して計算されている学生の詳細が明らかにされていないなど、データ処理の細部に詰め甘さがあるようにも思われる。こうした気になる点は見受けられつつも、鹿浦 (2008) は「ホームステイをした留学生の成績は常に寮・アパートに住む留学生のそれよりいいと言える」(118) と断言している。鹿浦研究の強みは同一大学・同一プログラムに参加する外国人学生について、プログラム内容やホスト国の社会背景などに変化が少ない 6 学期間に限定して分析に取り組んでいるところにある。いわば短期決戦、学校・プログラム限定で Rivers に匹敵しうるようなサイズのデータを集め、またその範囲内で成績を比較している。複数学期と 1 学期在籍学生の混在などについては「割り引いて」考える必要があるかもしれないが、少なくとも鹿浦の勤務校においては日本語学習者に成績上の Homestay Advantage が示唆されたい、と結論しても良いだろう。

### 2.3. Homestay Advantage (学生満足度と互惠的交流)

ホームステイならではの利点は異文化交流・異文化理解の文脈で論じられることも多い。

米国からスペインや中国、ロシアに語学研修をおこなった学生を題材とした研究 (Di Silvio et al. 2014) では、オーラルスキルの向上とホームステイへの満足度やホストファミリーとの親密度とに関係があるとの報告がされており、チュニジアでのアラビア語学習に関する調査 (Shiri 2015) では、ホストマザーが15週のプログラム期間中に米国人留学生の異文化理解の深化に大きな役割を果たしていたこともレポートされている。

ひるがえって、学習者のアウトカムだけではなく、ホストファミリーの側がどのような期待を持って留学生を受け入れているのか、また現場でトラブルなどの解決にあたっているのか、といった研究が増えてきたのが近年の趨勢である。例えば Knight and Schmidt-Rinehart (2002) はメキシコおよびスペインで米国人学生を受け入れた家庭へのインタビューを通して、ホストファミリー自体が留学生への言語教育の大きな部分を担っているとの自覚を有している一方、学生達の生活態度や文化ギャップ、料理の好き嫌い、電話・部屋の清掃、学生によっては部屋に閉じ籠もってしまうなど、いくつかのパターン化されたストレスを抱えていることを報告している。そういったホストファミリーのストレスを軽減する対策が Homestay Advantage を最大化する方策であると提言されている。良い学習成果を得るためには学生自身と共に、受け入れ家庭の環境などへの調査研究、そして適切なオリエンテーションが必要である、という議論には十分に説得力がある。Schmidt-Rinehart and Knight (2004) においても、関係者のインタビューの結果、学生、ホストファミリーそしてホームステイエージェントのいずれもがホームステイならではの利点を肯定していると結論づけており、ホームステイによって学習者の留学満足度が上がるとされた。

Cook (2006) は食卓での学習者とホストファミリーの会話の分析を通して、ホスト国で共有されている常識やステレオタイプなど、ごく身近で文化的なトピックについて、日常的な言語交流を通して学習者がホスト文化の機微を学んでいくプロセスを明らかにした。こういった過程を通じ、ホストファミリーにとっても自文化への理解が深まると共に、受け入れた学生の文化についての理解も深まる。そして Iino (2006) が日本語学習者のホームステイ環境での家族と学生の会話などのエスノグラフィーを分析しつつ強調したのは、ホームステイにおいては、異文化理解や自国文化の理解そして外国語学習などについて、学生だけでなくホストファミリーも利益を受けるという「一挙両得性 two-way enrichment」であり、Homestay Advantage は独り学習者だけにもたらされるものではなく、受け入れた家庭からもそれが期待されている、というポイントだった。

以上のようにホームステイ研究の趨勢は、EIL 以来のファミリーや地域社会などにも外国人留学生を受け入れて様々なメリットが得られる、とそれらを確認する方向に向かっており、例えば、ファミリーの満足度達成感と学生の留学満足度の相関などが検討される方向性が強くなっている。このあたりは社会運動的な EIL に起源を発するホームステイのあり方が大きく影響しているのだろう。

ただしここまでレビューしてきて気になるのは、一連の研究に「ホームステイは良い」との前提あ

りきの議論が多いように思えるところである。Homestay Advantage に対しても、様々な条件を勘案しながらの是々非々の客観的な検討が顧みられない傾向がある。今後は批判的かつ実証的なアプローチからホームステイ効果の検証を行う必要性があると考えられる（山口 2012）。

### 3. 大学アンケート

筆者および研究グループでは、2017年5月から7月にかけて、全国で留学生の受入をおこなっている機関を対象として調査協力を依頼した。全国でのホームステイ状況を知る目的としては十分にはほど遠いサイズのサンプル数であるものの、それでも国公私立大学等63校からの返答を頂いており、その結果について中間報告として一部紹介したい。

本調査は旧メディア教育開発センターが開発したREAS(リアルタイム評価支援システム)を用いて筆者自身がアンケートを制作し、ネット上でデータを収集した。項目総数73。回答はホームステイを「実施している」「まだ実施していないが検討中」「かつては実施していたが中止した」「方針としてやらない」という4つのグループに分けて分岐していく形をとっており、記名での回答を促している<sup>1</sup>。すべてについて詳述する紙幅はないが、本報告ではまずホームステイとは何か、という定義部分について、回答者の宿舎への取り組みの違いにみられる差異を概括していきたい。

#### 3.1. ホームステイの定義と意義

民泊？	まったく思わない	そうは思わない	そう思う	強くそう思う
HS 実施	5	6	2	
HS 検討		1		
HS 中止	2		1	
HS やらない	4	16	7	

(食事付) 下宿？	まったく思わない	そうは思わない	そう思う	強くそう思う
HS 実施	4	8	1	
HS 検討		1		
HS 中止	1		2	
HS やらない	3	10	13	1

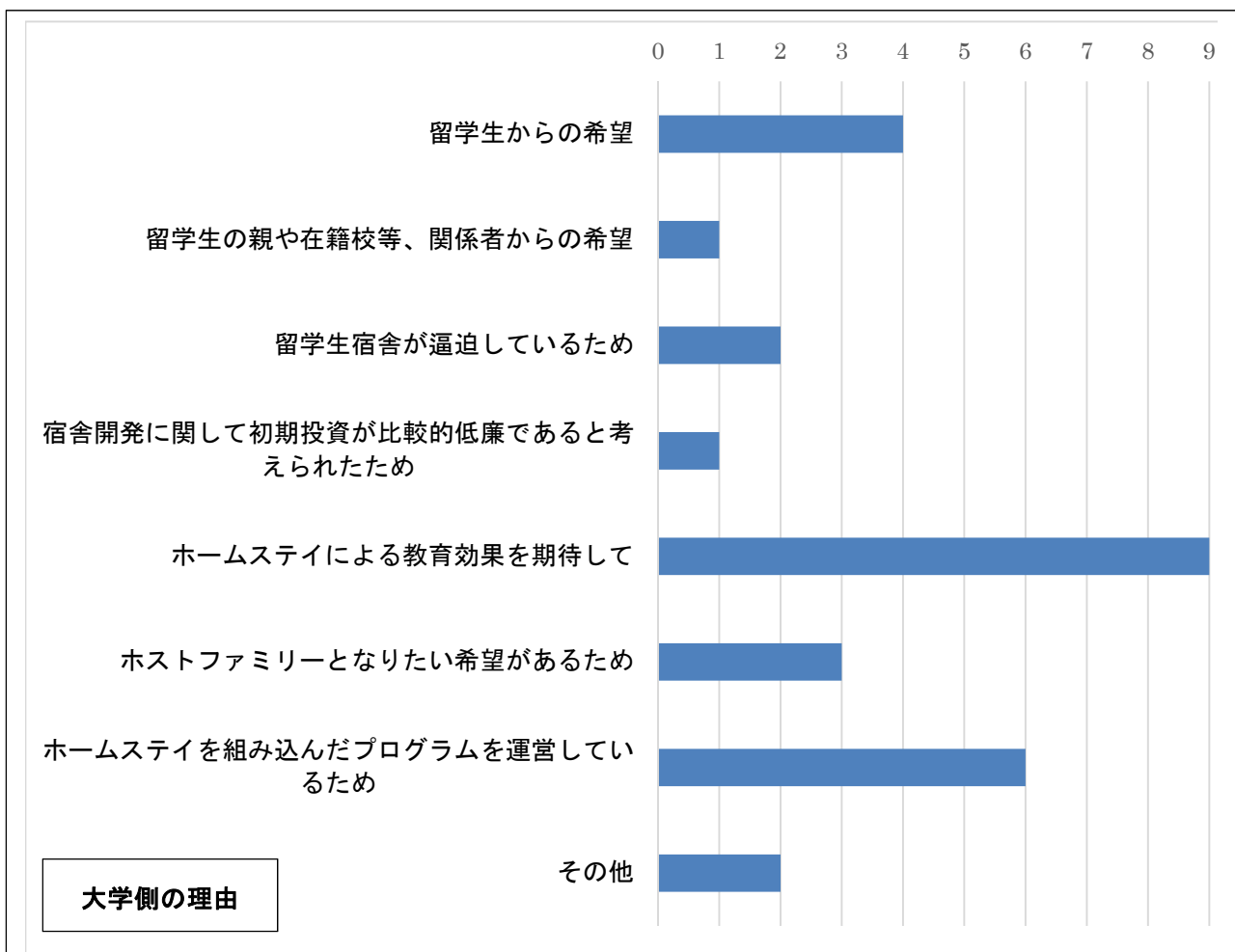
草の根交流？	まったく思わない	そうは思わない	そう思う	強くそう思う
HS 実施			6	7
HS 検討			1	
HS 中止		1	1	1
HS やらない			16	11

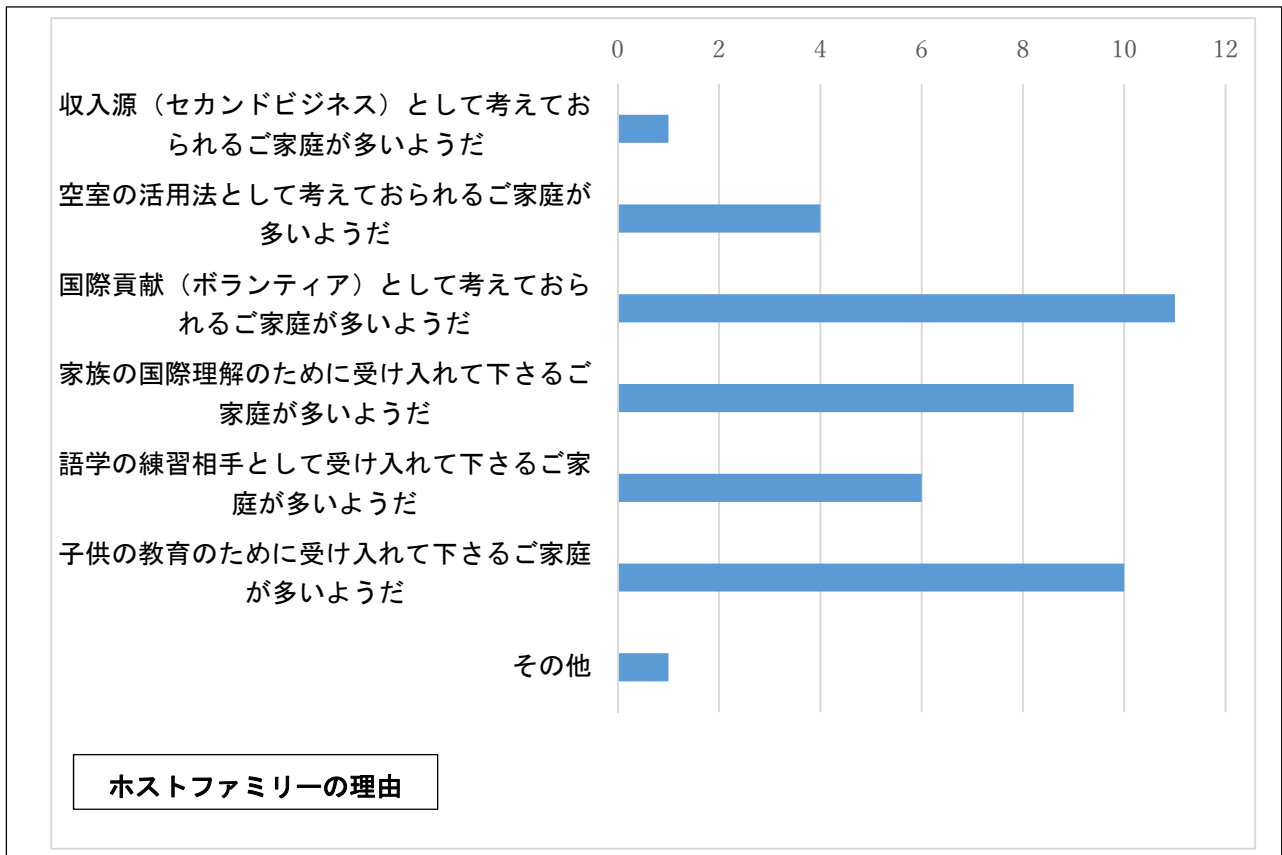
<sup>1</sup> 巻末に質問項目・分岐を収録している。添付資料1

アンケート回答者全員に対して「留学生のホームステイと、ネット等による『民泊』による外国人受入とでは、宿舎の形態として相違しているとお考えでしょうか」との質問を設けているが、サブ項目として「留学生ホームステイは（広い意味では）民泊の一部である」「留学生ホームステイは本質的には（食事付き）下宿である」「留学生ホームステイは草の根の国際交流として有効である」という三つの間に対して「強くそう思う」から「まったくそうは思わない」までの4段階で回答を求め、回答を整理したのが前頁の表である。相当数の学校がホームステイと民泊とは同種の宿舎である、という認識を持っていることが伺える。同様にホームステイを中止したり、取り組むつもりのない学校が「ホームステイは賄い付き下宿」という認識であることも留意したい。そしてホームステイに実際に取り組んでいる学校においてもその認識に幅がある。正面切って「ホームステイとは何か」について問われたときに、そのあり様については、教育関係者の間でも共通認識として定着はしていない。逆に「草の根交流か」については一機関を除いて意見が概ね一致していた。ある学校が例外的な認識を示した事情については次節で少し紹介する。

### 3.2. Homestay Advantage への期待と課題

また次に示すのは、ホームステイ受入を実施している大学側が「ホストファミリーをはじめた大学側の事情」そして「学生を受け入れてくれるファミリーの事情」についての質問である（複数回答可）。





大学側は「ホームステイによる教育効果を期待して」「ホームステイを組み込んだ教育プログラムがあるから」という理由が「留学生宿舎が逼迫している」というような理由づけを圧している。また受け入れ家庭の動機としては「国際貢献」「家族の国際理解」「語学の相手」「子供の教育のため」が「収入源（セカンドビジネス）として」より強い、と大学は理解している。

そして調査協力校でのホームステイは、一校を除いて食事付きで（その一校は「受け入れ家庭にお任せ」と回答）、一泊あたり各家庭には高いところで3,000円程度が支払われている模様だった。また一部には無償での受入（全くのボランティア）もあるらしい。金銭対価ではなく、各受け入れ家庭ではIino（2006）が強調したような、学生とホストファミリー双方に利益がある「一挙両得性 two-way enrichment」に期待をしつつ、食卓を囲んで学生の受け入れを促している模様である。一方その期待が「すれ違った」とときには深刻な事態も起こりうる。ここでは3.1.で「ホームステイは草の根の国際交流とは思わない」と回答したホームステイ中止校が記入した個別コメントを引用する。

留学生、ホストファミリー双方から苦情が出てその都度教職員で対応。留学生からは子どもがうるさく眠れない、ホストファミリーからは家賃の滞納、ルールを守らない、生活態度がなっていない、無断外泊、たばこを吸いすぎなど。特に、ホストファミリー側は、受入れ期間終了後に不満を爆発させることもあり、教職員で菓子折りを持ってお詫びにいったこともある



教職員が直面するトラブルのみならず、そのトラブルが大学と地域との関係性をこじらせてしまいかねない深刻なものになる可能性すらあることが判る。

#### 4. 夏期プログラム

冒頭で述べたとおり、筆者は勤務校において短期留学の受入を行っている。一年から三週間まで複数のプログラムを運営しているが、その一つに日本語集中プログラム J-ShIP (Japanese Short-term In-session Program) がある。夏と冬の二つの受入パターンがあるが、夏プログラムは米国の夏休み期間中(6月下旬から8月上旬まで)にあわせて開催される。夏のプログラムでは日本語学習歴ゼロ、もしくはきわめて短い参加者を対象として、8週間の間に90コマのカリキュラムを提供、50-60人を主として米国の協定校から受け入れている。その宿舎はキャンパス近辺の民間学生アパート(単身室)の借り上げによってまかなってきた(近藤 2012)。ところが3年ほど前には米国協定校からホームステイ宿舎をオプションに加えて欲しい、という強い要望があり、ここ数年はホームステイが20人、アパート宿泊が30人程度になっている。アパートはキャンパスから徒歩圏内で自炊、ホームステイは公共交通機関利用で1時間以内の立地となる。ホームステイなら一日二食付きで、食事の心配をしなくて良い代わりに、4万円ほどの追加料金と学校までの交通費が余分にかかる計算となる。2017年6月から8月にかけてのプログラムでは参加者49名(フランスからの1名を除き米国の大学から)のうち、アパートを選択した者30名(うち男10、女20)に対し、ホームステイを選んだ者が19名(うち男10、女9)となっている。学生の国籍はフランス1、中華人民共和国10、残りが米国となっていた。

これらの学生を対象にまずプログラム開始時にプログラムおよび宿舎への期待度についての事前アンケートを収集、プログラム終期には宿舎とプログラム満足度についてのアンケートを実施し、また彼らの成績を検分して有意な差が出るかどうかを調べた。なおデータ収集の関係から事前アンケートについては27名分の他のサマープログラム参加者についてもあわせて分析をおこなっている。これは理工系の学生が8週間の間大学研究室で研究インターンとして活動するプログラムで、全員が米国から参加し、うち7名がホームステイ、8名がアパート、12名が大学寮を選択していた。

こうして宿舎入居前のプログラムオリエンテーション時の「事前アンケート」<sup>2</sup>、またプログラム最終週の帰国オリエンテーション時でJ-ShIP参加学生49人を対象とした「事後アンケート」<sup>3</sup>を分析した。アンケート収集に際して、研究に使う可能性も含め、対象者には調査趣旨を口頭で説明して記名で回答を求めた。回収率は100%となっているが一部に欠損のあるデータも見られた。

<sup>2</sup> 質問紙を添付資料2として添付

<sup>3</sup> 質問紙を添付資料3として添付

## 5. アンケート項目と成績の相関

今回の事前アンケートでは「宿舎を選ぶ際に重視したこと」「プログラム終了後の目標」を尋ねている。事後アンケートでは、「宿舎での生活の満足度」「異文化理解度」、ホームステイ学生に限り「ホームステイ満足度」を尋ねた。以下では、これらのデータを元として、ホームステイを選択した学生とそうでない学生はそれぞれ宿舎を選ぶ際、何を重視していたのか（宿舎やプログラム内容について）、ホームステイを選択した学生とそうでない学生の成績には差がでたのか（もしくは、でなかったのか）、ということを検討したい。

分析にあたりデータの処理について述べる。

事前アンケートでは、「宿舎を選ぶ際に重視したこと」「プログラム終了後の目標」二つの設問について複数の選択肢から、5つ選択させ、その上で優先順位を答えてもらっている。解答の最小値は0であり、最大値は5である。当然のことながら、1番重視している項目については5ポイント、5番目に重視している項目については1ポイントをあてた。その上で、ホームステイを選択した人とそうでない人（以下、住居選択変数）を独立変数とし、それぞれの項目について「平均の差」を見ていく。事後アンケートについては、「生活満足度」「異文化理解度」について、5段階で満足度を尋ねている（最小値1、最大値5）。これらの項目についても住居選択変数を独立変数とし、それぞれの「平均の差」を分析した。また成績<sup>4</sup>についても同様に住居選択変数を独立変数とし、「平均の差」を分析した。分析にはSPSSを用いている（記述統計量は脚注参照）。

### 5.1. 事前アンケートの分析

住居選択変数を独立変数とし、「宿舎を選ぶ際に重視したこと」<sup>5</sup>「プログラム終了後の目標」<sup>6</sup>について平均の差を分析した。その結果は次表の通りである。まず、宿舎を選ぶ際に重視したことについて、ホームステイ選択者が重視した項目でかつ0.1%水準で有意であったものは「食事」「地域住民との交流」「家族的な雰囲気」「言語学習」（イータの値はそれぞれ、0.383, 0.772, 0.506, 0.379）である。逆に、ホームステイ以外を選択した学生が重視したことのうち、0.1%水準で有意であったものは「費用」「広さ・間取り」「プライバシー」「立地・通学距離」（イータの値はそれぞれ、0.322, 0.335, 0.358, 0.335）である。また1パーセント水準で有意であったものは、「個人専用水回り設備の必要」「ネット環境」「プログラム参加学生同士の交流」（イータの値はそれぞれ、0.239, 0.25, 0.279）である。

これらの結果から、ホームステイを選択した学生は、宿舎選択にあたり「食事」「地域住民との交流」「家族的な雰囲気」「言語学習」を重視しており、ホームステイを選択しなかった学生は「費用」「広

<sup>4</sup> 成績に関する記述統計量は本稿末の表Ⅰの通りである。

<sup>5</sup> 「宿舎を選ぶ際に重視したこと」に関する記述統計量は、本稿末の表Ⅱの通りである。

<sup>6</sup> 「プログラム終了後の目標」に関する記述統計量は、本稿末の表Ⅲの通りである。

さ・間取り」「プライバシー」「立地・通学距離」「個人専用水回り設備の必要」「ネット環境」「プログラム参加学生同士の交流」を重視していた。換言すれば、今後サマープログラムでホームステイを推奨するのであれば、ホームステイ以外を選択した学生が重視していた項目について改善していくことが必要だと言えるかも知れない。たとえば筆者が対象としたJ-ShIPについては、ホームステイ選択者の方が4万円ほど費用は高く、立地条件（通学時間・通学交通費）に関してもやや出費がかさむ。今回の結果から宿舎選択決定要因の多様さが示唆されている。

	ホームステイ選択者			その他			分散分析表（抜粋）		
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	自由度	F値	有意性
費用	0.231	26	0.7104	1.367	49	1.9224	1	8.431	***
広さ・間取り	0.269	26	0.9616	1.429	49	1.8143	1	9.202	***
プライバシー	0.423	26	1.1375	1.898	49	2.1335	1	10.75	***
個人専用水回り設備の必要	0.154	26	0.7845	0.816	49	1.4955	1	4.434	**
ネット環境	0.539	26	1.2404	1.408	49	1.7902	1	4.877	**
食事	1.577	26	1.5537	0.51	49	1.0433	1	12.53	***
大家との交流	0.269	26	0.9616	0.122	49	0.5997	1	0.662	
地域住民との交流	3.731	26	1.8013	0.408	49	0.9772	1	107.8	***
地元学生との交流	1.115	26	1.5831	0.959	49	1.3838	1	0.196	
プログラム参加学生同士の交流	0.154	26	0.5435	0.837	49	1.3439	1	6.147	**
立地・通学距離	0.885	26	1.5576	2.163	49	1.8183	1	9.243	***
立地・キャンパス以外との距離	0.615	26	1.0983	0.612	49	1.2044	1	0	
安全	0.231	26	0.6516	0.388	49	0.975	1	0.543	
家族的な雰囲気	1.692	26	1.7151	0.204	49	0.8655	1	25.08	***
言語学習	2.308	26	1.4905	0.939	49	1.6759	1	12.21	***
学修に集中できる環境	0.192	26	0.801	0.612	49	1.32	1	2.194	

\*:p<0.05, \*\*:p<0.01, \*\*\*:p<0.001

続いて、プログラム期間中に「どのような学びや経験を得たい」と考えているかの期待について事前アンケートへの記入を点検する。

次頁の表ではホームステイ選択者とそれ以外の選択者の差を検討している。既に検討した宿舎選択の理由付けとは異なって、プログラム参加への期待については、ホームステイ選択者とそれ以外の選択者の間で有意な差のある項目は「日本人の生活を知る」を除いては析出されなかった。

外国人学生にとって、日本で何を身につけたいか、知識を増やしたいか、ネットワークを広げたいか、経験をしたいか、といった期待は宿舎選択には無関係で、わずかに「日本人の生活を知りたい」という目的意識がホームステイを選ぶ理由となっている（イータ値は0.343）。前問で明らかになった

ホームステイ選択者が重視する「食事」「地域住民との交流」「家族的な雰囲気」「言語学習」といった項目も日本で期待されるアウトカムとしては「日本人の生活」に収斂しているようだ。学生にとって「日本語の集中講義で良い成績をとりたいのだったら日本でのホームステイをしなきゃ」というようなアカデミックな意味で Homestay Advantage が期待されているというわけではない。

	ホームステイ選択者			その他			分散分析表（抜粋）		
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	自由度	F値	有意性
日本語習得	2.54	26	1.923	2.7	49	1.89	1	0.117	
日本の大学・研究を知る	1.15	26	1.87	1.4	49	1.758	1	0.32	
単位を在籍校で互換する	0.54	26	1.363	0.87	49	1.642	1	0.763	
日本・大阪の文化を体験する	2.69	26	2.055	2.95	49	1.634	1	0.35	
日本人の生活を知る	2.35	26	1.875	1.13	49	1.462	1	9.706	***
同年代の日本人と知り合う	0.96	26	1.483	0.98	49	1.57	1	0.003	
様々な年代の日本人と知り合う	1	26	1.327	0.59	49	1.13	1	1.937	
プログラム参加者同士で交流する	0.27	26	0.667	0.64	49	1.283	1	1.921	
日本で新たな可能性を探る	0.62	26	1.235	0.78	49	1.399	1	0.248	
関西・大阪を旅行する	0.92	26	1.383	0.64	49	1.282	1	0.811	
日本を旅行する	2	26	1.497	1.8	49	1.316	1	0.362	

\*:p<0.05, \*\*:p<0.01, \*\*\*:p<0.001

## 5.2. 事後アンケートの分析

その後約2ヶ月を経てプログラム終期にとった事後アンケートを分析した結果、「生活満足度」「異文化理解度」など<sup>7)</sup>について、ホームステイとアパート等では「様々な年代の日本人と知り合えた」（イータの値は0.317）という項目を除き、有意な差は認められなかった（下表）。

	ホームステイ選択者			その他			分散分析表（抜粋）		
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	自由度	F値	有意性
大学の講義以外の学習	4.42	19	0.692	4.18	28	1.02	1	0.815	
日本の活字を読む	3	19	1.054	2.5	28	1.202	1	2.158	
日本のテレビ番組鑑賞	3.63	19	1.257	3.04	28	1.453	1	2.118	
日本人の電話会話やネット連絡	2.89	19	1.487	2.64	28	1.339	1	0.366	
関西・大阪の旅行	4.58	19	0.607	4.64	28	0.731	1	0.099	
日本の旅行	4.32	19	0.885	4.14	28	1.38	1	0.232	
日本語で会話する機会があった	4.11	19	0.937	4.15	26	0.967	1	0.028	
日本人の生活を知ることができた	4.21	19	0.918	4.04	26	0.871	1	0.41	
日本・大阪の文化を体験できた	4.53	19	0.612	4.38	26	0.697	1	0.502	
日本の大学やその研究を知ることができた	3.56	18	0.856	3.42	26	1.206	1	0.161	
実践的日本語が身についた	3.72	18	0.958	3.85	26	1.008	1	0.167	
日本語学習に成果があった	4	19	0.882	3.88	26	0.993	1	0.163	
生活の悩みについて相談できる相手がいいた	4.21	19	1.134	4.23	26	0.951	1	0.004	
学習に関して悩みについて相談できる相手がいいた	4.11	19	1.049	4.15	26	1.008	1	0.025	
同年代の日本人と知り合えた	4.21	19	0.918	4.08	26	0.935	1	0.028	
さまざまな年代の日本人と知り合えた	4.16	19	0.958	3.38	26	1.299	1	4.81	*
プログラム参加者同士で交流した	4.58	19	0.692	4.38	26	0.941	1	0.579	

\*:p<0.05, \*\*:p<0.01, \*\*\*:p<0.001

<sup>7)</sup> 「生活満足度」及び「異文化理解度」の記述統計量は本稿末の表IVの通りである。

ただしこの表からも明らかな通り、事後アンケートにおいては宿舎に焦点を絞った項目は設けておらず、その結果、住居形態による差が見られなかったことも考えられる。

そもそも質問票の設計時点では、帰宅してからの日本語学習・実践やホストファミリーとのテレビ鑑賞、近郊への家族旅行・レクリエーションなど、ホームステイとアパートとの間で生活パターンに差が出ることも想定・期待されていた。実際の学生生活は筆者の想定と異なっていたようだ。結果として質問紙設計が不十分であったところではあるが、次回以降は項目を再点検し、Homestay Advantageがあるとすれば、その発見と検討とが可能なデザインとしたい。

なおこの夏の日本語サマースクール J-ShIP の成績については、全体平均としては 100 点満点では 87.6 点。そのうちホームステイ学生 19 名の平均点が 89.9 点に対し、アパートの学生 30 名が 86.1 点となった。多少の差異が認められるものの、統計上有意な差とまでは言えない状況に止まっている。今後もデータ集積をすすめ、引き続いての分析・検討を必要としている。

## 6. まとめ（現代の Homestay Advantage とはなにか）

本稿ではその定義と絡めて「ホームステイと民泊・下宿との違い」そして「ホームステイならではの利点」について様々な角度から検討してきた。

教育機関等を対象としたアンケートにおいては学生に対する「教育効果」への強い期待や、プログラムと関連付けられていることも明らかになった。同時にホームステイ運営自体が大学教職員の重荷になっており「もうこりごり」という様な経験をした関係者がいたことを紹介した。このようなトラブルを軽減するのは当然として、Homestay Advantage とは学習者のみにあるのではなく、大学や受け入れ家庭が享受する裨益を最大化するようなデザインや運用を考える必要があるのではないかと思われる。

一方夏期 J-ShIP の参加者からの意見をとりまとめると、ホームステイを選ぶ学生には Homestay Advantage に向けて強い期待があるが、それは勉強を進めたいというよりも、日本人の生活実態を知りたい、という望みである。実際にも 8 週間のプログラムにおいて言語習得上の Homestay Advantage は、少なくとも成績などで客観的に認められるほどには差がついてはいなかった。Rivers (1998) の例を引くまでもなく、ホームステイの教育効果については成績比較に基づく検証が十分に出来ているとは言いがたい。成績の良否には当然ながら様々なファクターが絡む。また仮に「家族の一員」として家庭に受け入れられたからといって、その家族のあり方も一様ではない。宿舎の違いというのは、学習時間、適性、教員習熟度、関連知識、基礎学力、文化資産、学習方法、教材、教室外学習時間など、成績に効果を及ぼす数多いファクターのひとつにすぎない。宿舎タイプによって成績に差が出るのか、といった設問にはさらに多面的なデータを集めての研究が必要となる。同一プログラム（たとえば J-ShIP）内で比較検証をするにしても、「ホームステ

イ先でどのような教室外学習をしているか」「アパートでどのような教室外学習をしているか」という調査・検討を抜きにして、成績の差異を宿舎のタイプだけに還元する議論自体が非現実的だとも思われる。先行研究などを参照した限りでは、ホームステイ学生の留学満足度が高め、といった傾向は伺える。留学満足度を Advantage と考え、「どのようなホームステイが Homestay Advantage（留学満足度）を最大化するか」といった議論へと研究トピックの若干のシフトを図るのも一案であると思われる。

また、受け入れ家庭が外国人留学生受け入れに対して抱く期待を考えれば、もう少しドラスティックな研究や運営のパラダイム転換を模索しても良いかもしれない。受け入れ家庭の家族や子弟のチューターやメンターとして留学生に若干のトレーニングを施し、受け入れ先での留学生の貢献をコストに反映させた受け入れシステムを設計することも出来るだろう。留学生にとっては比較的安価で、受け入れ家庭にとっては交流がプログラム化されたホームステイを提供することで、留学生・ファミリー双方に対する Homestay Advantage を具現化・最大化するといった「一挙両得 two-way enrichment」(Iino 2006) のアプローチも考えられるかもしれない。

筆者らは引き続いてホームステイ学生とアパート学生の成績比較などのデータ集積を行っていくつもりだが、この報告・論考をとりまとめる過程でも明らかになったように、今後のホームステイ研究の方向性について、更なる検討や検証が必要だと模索しているところでもある。読者諸賢からのご批判、アドバイスなどを頂きたいと切に願っている。

なお、本報告は科学研究費挑戦的萌芽研究（課題番号 16K13547 ; H28-30）の助成を受けておこなっている調査の一部となる。本稿をまとめるにあたり、科研協力者であるネクステージ Homestay in Japan の熊谷圭司氏と異文化理解トレーナー熊井知美氏、また RA をつとめてくれている人間科学研究科院生の伊藤駿君の助力を仰いだ。そして大阪観光大学の山口隆子教授からは非常に大きなアドバイスを頂いた。深くお礼を申し上げたい。

## 7. 参考文献

- Bhuiyan, M. H., Aman, A., Siwar, C., Ismail, S. M. & Mohd-Jani, M. F. (2012). 'Homestay accommodation for tourism development in east coast economic region' "American Journal of Applied Sciences" 9(7), pp1085-1090
- Cook, M. H. (2006). 'Joint Construction of Folk Beliefs by JFL Learners and Japanese Host Families.' in M.A. Dufon and E. Chrchill (eds.) "Language Learners in Study Abroad Contexts." Multilingual Matters; Toronto
- Di Silvio, F., Donovan, A. and Malone, M. E. (2014). 'The Effect of Study Abroad Homestay Placements: Participant Perspectives and Oral Proficiency Gains' "Foreign Language

- Annals,” 47(1), pp. 168-188.”
- Iino, M. (2006). ‘Norms of Interaction in a Japanese Homestay Setting: Toward a Two-Way Flow of Linguistic and Cultural Resources’ in M. A. Dufon and E. Chrchill (eds.) “Language Learners in Study Abroad Contexts” Multilingual Matters; Toronto
- Knight, S. M. and Schmidt-Rinehart, B. G. (2002). ‘Enhancing the Homestay: Study Abroad from the Host Family’ s Perspective’ “Foreign Language Annals” 35(2) pp190-201
- Rivers, W. I. (1998). ‘Is being there enough? The effects of homestay placements on language gain during study abroad.’ “Foreign Language Annals” 31 (4), pp492-500.
- Schmidt-Rinehart, B. G. and Knight, S. M. (2004) . ‘The Homestay Study Abroad: Component of Three Perspectives’ “Foreign Language Annals” 37(2) pp254-262
- Shiri, S. (2015). ‘The Homestay in Intensive Language Study Abroad: Social Networks, Language Socialization, and Developing Intercultural Competence’ “Foreign Language Annals” 48(1) pp5-25
- 近藤佐知彦 (2012) 「SS プログラム J-ShIP の一年目 : 新コンセプト超短期日本語プログラムへの挑戦」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』 16 pp. 97-106
- 鹿浦佳子 (2007) 「ホームステイにおける日本語学習の効用ーホームステイ、留学生、日本語教員の視点からー」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 第 17 号 pp. 62-112
- 鹿浦佳子 (2008) 「ホームステイする学生は成績がいい！ ホームステイをすると成績が上がる？」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 第 18 号 pp. 99-134
- 牧野成一 (1998) 「ホームステイにおける日本語学習効果」 鎌田修・山内博之編『日本語教育・異文化コミュニケーションー教室・ホームステイ・地域を結ぶものー』 pp. 41-61 (財) 北海道国際交流センター
- 港区 (2010) 「ホームステイ及びホームビジットに関する意識調査報告書」『港区産業・地域振興支援部国際化推進担当』 刊行物発行番号 2 1 1 2 6 - 3 2 1 1
- 山口隆子 (2008) 2008 年 「「ホームステイ」誕生の背景と求められた異文化理解ー世界で最初のホームステイ組織・EIL を事例にー」『神戸文化人類学研究』 第 2 号 pp. 30-69. 神戸大学大学院国際文化学研究科文化人類学コース
- 山口隆子 (2012) ホームステイの人類学的研究ーホームステイ組織 The Experiment in International Living の形成と展開ー 博士学位論文 (神戸大学)
- 横田雅弘 (2012) 「ホームステイの効果に関する研究」『学校法人明治大学株式会社 JTB 法人東京産学共同調査研究 2008 年 10 月 1 日~2012 年 7 月 31 日』 研究代表者横田雅弘 (明治大学国際日本学部教授)

〈付記〉

表Ⅰ 成績の記述統計量

変数名	平均値	標準偏差
成績	87.5918	13.2805

表Ⅱ 「宿舎を選ぶ際に重視したこと」に関する記述統計量

変数名	平均値	標準偏差
住居形態	1.8421	0.71279
費用	0.9733	1.69238
広さ・間取り	1.0267	1.66013
プライバシー	1.3867	1.97206
個人専用水回り設備の必要	0.5867	1.32638
ネット環境	1.1067	1.66501
食事	0.88	1.33518
大家との交流	0.1733	0.74204
地域住民との交流	1.56	2.06149
地元学生との交流	1.0133	1.44721
プログラム参加学生同士の交流	0.6	1.17404
立地・通学距離	1.72	1.82742
立地・キャンパス以外との距離	0.6133	1.16124
安全	0.3333	0.87508
家族的な雰囲気	0.72	1.41
言語学習	1.4133	1.73278
学修に集中できる環境	0.473	1.18464
その他	0.24	0.94211

表Ⅲ 「プログラム終了後の目標」に関する記述統計量

変数名	平均値	標準偏差
日本語習得	2.6417	1.88973
日本の大学・研究を知る	1.315	1.78847
単位を在籍校で互換する	0.7533	1.54957
日本・大阪の文化を体験する	2.86	1.78121
日本人の生活を知る	1.5483	1.70785
同年代の日本人と知り合う	0.975	1.53052
様々な年代の日本人と知り合う	0.735	1.20877
プログラム参加学生同士で交流する	0.5133	1.11795
日本で新たな可能性を探す	0.7217	1.33852
関西・大阪を旅行する	0.735	1.31583
日本を旅行する	1.8683	1.37468
その他	0.0933	0.59669



変数名	平均値	標準偏差
費用対効果	3.9783	0.85607
プライバシー	4.5532	0.54408
水回り	4.2826	0.93483
ネット環境	3.7021	1.15936
食事	4.3478	0.76645
住民との交流	3.8085	1.11586
学生との交流	3.9783	1.14483
大学に通うのに便利	3.9149	1.23058
大学以外に出かけるのに便利	3.3404	1.40305
大学の講義以外の学習	4.2766	0.90174
日本の活字を読む	2.7021	1.15936
日本のテレビ番組鑑賞	3.2766	1.39412
日本人の電話会話やネット連絡	2.7447	1.39047
関西・大阪の旅行	4.617	0.67737
日本の旅行	4.2128	1.19667
日本語で会話する機会があった	4.1333	0.94388
日本人の生活を知ることができた	4.1111	0.88478
日本・大阪の文化を体験できた	4.4444	0.65905
日本の大学やその研究を知ることができた	3.4773	1.06724
実践的日本語が身についた	3.7955	0.97836
日本語学習に成果があった	3.9333	0.93905
生活の悩みについて相談できる相手がいた	4.2222	1.02
学習に関して悩みについて相談できる相手がいた	4.1333	1.01354
同年代の日本人と知り合えた	4.1333	0.91949
さまざまな年代の日本人と知り合えた	3.7111	1.21771
プログラム参加者同士で交流した	4.4667	0.84208

表Ⅳ 「生活満足度」及び「異文化理解度」の記述統計量

添付資料 1

1	御校について(学校・学園名)		
2	御校の学校種について		
3	御校の設立母体		
4	御校の留学生受入数(正規生・非正規生をあわせた年間受入数)		
5	回答頂いている方の所属・職責		
6	回答頂いている方のお名前		
7	電子メール		
8	御校ではホームステイでの留学生宿舎の確保をしていますか		
9	はい、ホームステイを留学生宿舎の一部にあてています	いいえ、しかし将来的にはホームステイを採り入れるつもりです	いいえ、ホームステイによる留学生宿舎提供は止めました
9	御校でホームステイを始めた理由は何ですか	ホームステイによる留学生宿舎確保を考えておられる理由は何でしょうか	御校でホームステイを行わない理由は何でしょうか
	学内でホームステイのアレンジをしていますか、それともエージェント(学外の紹介業者など)を使っていますか	学内でホームステイのアレンジをする予定ですか、それともエージェント(学外の業者など)を使いますか	当初ホームステイを始めた理由は何だったでしょうか
	ホームステイと教育プログラムがひも付けされているでしょうか(プログラムで参加者の希望でホームステイが選択できる、もしくは参加者全員をホームステイさせている場合を「ひも付け」とします)	ホームステイと教育プログラムがひも付けされる予定ですか(プログラムで希望者にはホームステイのオプションを用意している、もしくは参加者全員をホームステイさせている計画であれば「ひも付け」とします)	その後ホームステイを中止した理由は何でしたか
	(#1)ホームステイとひも付けされたプログラム名称について教えてください	ホームステイを割り当てる(ひも付けされる)予定のプログラムの実施期間	当時は学内でホームステイのアレンジをしていましたか、それともエージェントを使っておられましたか
	そのプログラムの実施期間	そのプログラムでの年間受入予定人数(計画数)を教えてください	当時ホストファミリーをお願ひする上で重視していたことは何だったでしょうか
	そのプログラムでの年間受入規模(人数)を教えてください	そのうち何人の留学生がホームステイをする見込みですか	マッチングの際に重視していること、またこれまで困ったことなどについて教えてください
	そのプログラムのうち何人の留学生がホームステイをしますか(直近のプログラムの数字、もしくは計画数)	御校では年間を通してどの程度の留学生ホームステイ宿舎を確保する予定ですか	具体的な何か困ったご経験・事例等がありましたら、教えてください
	ホームステイをする留学生はプログラム期間中は同じファミリーに滞在しますか	御校のホームステイプログラムでは食事をつけるつもりでしょうか(1日あたり)	今後ホームステイによる留学生宿舎確保を再開するご予定はあるでしょうか。
	そのプログラムでのホームステイ受入規模(ホームステイ期間かける人数)を教えてください。例えば「20人定員で2ヶ月のサマースクール全員がホームステイなら「40人×月」として下さい。仮に期間中の2週間だけホームステイをする場合は、1ヶ月に切り上げて「20人×月」をお願いします。	ホストファミリーの募集はどのような方法で行うつもりですか	
	(#2)その他にもホームステイとひも付けされた留学生のプログラムがありますか	ホームステイ謝礼(一泊あたり)の設定をどのように予定していますか(月額設定の場合はおおよそ30で割った金額)	上記の理由を教えてください
	そのプログラムの実施期間	御校で留学生対象のホストファミリー登録を受け付ける際、対象のご家庭に関して重視しなければならない、と考えておられることは何でしょうか	
	そのプログラム全体での年間留学生受入規模	宿舎を提供して下さるファミリーについて、御校で想定されているところをお聞かせ下さい	
	そのプログラムでの年間のホームステイ受入規模(ホームステイする人数)	単身家庭(配偶者と死別など)、高齢家庭、若年者、一人親世帯、共働き世帯などを留学生のホストファミリーに登録するについて、御校としての方針があればお聞かせ下さい。	
	そのプログラムのうち何人の留学生がホームステイをしますか(直近のプログラムの数字、もしくは計画数)		
	ホームステイをする留学生はプログラム期間中は同じファミリーに滞在しますか		
	そのプログラムでのホームステイ受入規模(ホームステイ期間かける人数)を教えてください。例えば「20人定員で2ヶ月のサマースクール全員がホームステイなら「40人×月」として下さい。仮に期間中の2週間だけホームステイをする場合は、1ヶ月に切り上げて「20人×月」をお願いします。		
	御校全体で、年間では何人ぐらいの留学生がホームステイで宿舎を確保しているとお考えですか		
	御校留学生全体での年間ホームステイの規模をうかがいます。ホームステイ留学生数およびその期間を掛け合わせて下さい(人×月)。1ヶ月未満のプログラム参加者・ホームステイ留学生は1ヶ月として繰り上げて計算して下さい。(例)2ヶ月間ホームステイをした留学生10人、年間を通してホームステイを続ける者が10人、2週間のサマースクール参加者が7人であれば、2×10+12×10+1×7で147(人・月)として下さい		
	御校の留学生を受け入れて下さるホストファミリー登録数を教えてください。エージェントを使用している場合は該当エージェントが御校に割り当てられるホストファミリー数、もしくは過去の経験から一定時期に運用できたホストファミリー数の最大値をご記入下さい。		
	登録ホストファミリーの募集はどのような方法で行っておられますか		
	ホームステイの謝礼(一泊あたり)の設定(月額設定の場合はおおよそ30で割った金額)		
	御校で登録しているホームステイでは食事はつきますか(1日あたり)		
	ステイ先として登録して下さったご家庭について、御校でお考えのところをお聞かせ下さい		
	御校で留学生対象のホストファミリー登録をする上で、対象のご家庭に関して重視していることは何でしょうか		
	単身家庭(配偶者と死別など)、高齢家庭、若年者、一人親世帯、共働き世帯などが留学生受入を希望された場合、御校ではホストファミリーとして登録を受け付けますか。御校として方針や、これまでのご経験があればお聞かせ下さい。		
	これまで困ったトラブルなどについて教えてください。		
	具体的に何か困ったご経験・事例等がありましたら、教えてください。		
	今後もホストファミリー登録を増やしたり、ホームステイによる留学生宿舎確保を進めていくつもりでしょうか。		
	上記の理由を教えてください		
	ホームステイ運営について、これまでのご経験からお気づきになったところを教えてください。		
	ホームステイでは異文化理解・外国語習得・ソーシャルスキル獲得などの教育効果があると考える関係者もおります。御校ではどのようにお考えでしょうか。		
	留学生のホームステイと、ネット等による「民泊」による外国人受入とは、宿舎の形態として相違しているとお考えでしょうか。		
	「留学生ホームステイ」に関して、御校以外についてご存知の情報があれば、ご教示いただくと有り難いです。本アンケートについてご意見、連絡事項などがございましたらご記入下さい。ご協力本当に有り難うございました。		

添付資料 2

Accommodation Survey for Osaka Summer Institute

2017/06/19

大阪大学(近藤佐知彦)は留学生宿舎について学術振興会の科学研究費助成を受けて調査研究に取り組んでいます。ご面倒をおかけ致しますが、今回大阪の夏のプログラムに参加するにあたり、以下の質問に答えて頂けますよう、どうかよろしくおねがいたします。

Kondo Sachihiko (Osaka University) is currently granted for his research on the international student accommodation by JSPS. At the very beginning of your summer institute, it will be very helpful for us, if you are answering questions below. We really appreciate spending your 3-4 minutes to fill out the survey.

近藤佐知彦 Sachihiko Kondo

名前 \_\_\_\_\_ 国籍 \_\_\_\_\_ 大学名 \_\_\_\_\_  
 Name \_\_\_\_\_ Nationality \_\_\_\_\_ Home University \_\_\_\_\_

夏の留学で宿舎を選ぶ時には何を重視しましたか。順に 5 つあげてください。

Deciding your accommodation for your summer institute, what did you prioritize most? **Number your top five concerns** amongst the below.

- ( ) 費用 cost
- ( ) 広さ・間取り space for individuals
- ( ) プライバシー privacy
- ( ) 個人専用水回り設備の必要 necessity for personal bathroom / kitchen facilities
- ( ) ネット環境 free internet
- ( ) 食事 food / meal plan
- ( ) 大家との交流 interactions with land-load
- ( ) 地域住民との交流 interactions with local Japanese people
- ( ) 地元学生との交流 interactions with local (Japanese) students
- ( ) プログラム参加学生同士の交流 interactions amongst program participants
- ( ) 立地・通学距離 accessibility to campus
- ( ) 立地・キャンパス以外との距離 accessibility to destinations other than campus
- ( ) 安全 security
- ( ) 家族的な雰囲気 at-home atmosphere
- ( ) 言語学習 studying Japanese
- ( ) 学修に集中できる環境 living conditions for pursuing research / study
- ( ) その他 Others (Specify)

今回の留学の成果としてあなたが重視していることは何でしょう。順に 5 つあげてください。

What you expect the most for outcomes of your studying abroad in this summer? **Number your top five priorities** amongst the below.

- ( ) 日本語習得 to study Japanese
- ( ) 日本の大学・研究を知る to experience one of the Japanese universities / research environment
- ( ) 単位を在籍校で互換する to transfer Osaka Summer Institute credits to home institutions
- ( ) 日本・大阪の文化を体験する to experience Japanese / Osaka culture
- ( ) 日本人の生活を知る to understand Japanese way of life
- ( ) 同年代の日本人と知り合う to make Japanese friends of my own generation
- ( ) 様々な年代の日本人と知り合う to make Japanese friends of various generations
- ( ) プログラム参加学生同士で交流する to interact amongst program participants
- ( ) 日本で新たな可能性を探す to search future directions of my own research / life in Japan
- ( ) 関西・大阪を旅行する to travel Kansai / Osaka region
- ( ) 日本を旅行する to travel in Japan
- ( ) その他 Others (Specify)

Your program (tick the appropriate)

- J-ShIP
- FrontierLab Summer

Your accommodation type in summer 2017 (tick the appropriate)

- home-stay
- apartment (single occupancy flat)
- dormitory
- other ( )

添付資料 3

## Accommodation Survey for Osaka Summer Institute

August 2017

大阪大学(近藤佐知彦)は日本学術振興会の科学研究費助成を受けて留学生宿舎について調査研究に取り組んでいます。ご面倒をおかけ致しますが、今回大阪の夏のプログラムを修了するにあたり、以下の質問に答えて頂けますよう、どうかよろしくおねがいたします。

Kondo Sachihiko (Osaka University) is currently granted for his research on the international student accommodation by JSPS. Completing your summer institute, it will be very helpful for us, if you are answering questions below.

近藤佐知彦 Sachihiko Kondo

名前 \_\_\_\_\_ 母校 \_\_\_\_\_  
 Name \_\_\_\_\_ Home University \_\_\_\_\_

夏の留学中の宿舎に関して、あなたは以下の項目にどの程度満足していますか。  
**To what extent have you been satisfied with Your Summer Institute Accommodation?**

	Not Satisfied			Satisfied	
	1	2	3	4	5
費用対効果 Cost Performance	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プライバシー Privacy	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
水回り設備の使い勝手・清潔 Usability / Cleanness of Kitchen / Bath-room	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ネット環境 Internet Access	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食事 Meal / Food	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
住民との交流 Interactions with Local Community	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学生との交流 Interactions with Local Students	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学に通うのに便利 Accessibility to Campus	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学以外に出かけるのに便利 Accessibility to Destinations other than Campus	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

夏の留学期間中、あなたは日常的に以下の活動を楽しみましたか。  
**To what extent have you enjoyed activities below?**

	Very Scarcely			Very Often	
	1	2	3	4	5
大学の講義以外の学習 Learning something outside the Class-room	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本の活字（新聞や本）を読む Reading Japanese Texts (Newspaper / Books)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本のテレビ番組鑑賞 Watching Japanese TV Programs	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本人との電話会話やネット連絡 Telephone / e-mail communications with Japanese	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
関西・大阪の旅行 Traveling Kansai / Osaka Area	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本の旅行 Traveling Japan	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

《Fill-out the other side, please》

あなたの学修成果やその過程について、もっとも当てはまる項目はどれでしょう。

**Choose the most appropriate, concerning your learning process and outcome.**

	No, not at all			Yes, indeed	
	1	2	3	4	5
日本語で会話する機会が多かった Sufficient Opportunities to Communicate in Japanese Language	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本人の生活を知ることができた Understood Real Japanese Life	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本・大阪の文化を体験できた Experienced Japanese / Osaka Cultures	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本の大学やその研究を知ることが出来た Understood Japanese University and Research	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実践的日本語が身についた Learned Practical Japanese communication skill	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本語学習に成果があった I have sufficiently studied Japanese in summer	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

夏の期間中の学習中の悩み事などについてどのようなサポートが期待できましたか。

**What kind of supports you could expect in summer, in order to deal with difficulties.**

	No, not at all			Yes, indeed	
	1	2	3	4	5
生活の悩みについて相談できる相手がいた I had someone to consult with on Daily Problems.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学習に関して悩みについて相談できる相手がいた I had someone to consult with on Academic Issues.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
同年代の日本人と知り合えた I got to know Japanese of my own generation.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
さまざまな年代の日本人と知り合えた I got to know Japanese of various generations.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プログラム参加者同士で交流した I interacted amongst Program Participants	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**【For Home Stay Students Only】**

ホームステイでの経験について、以下の項目はあなたにどの程度当てはまりますか。

**Choose the most appropriate for your homestay experience.**

	No, not at all			Yes, indeed	
	1	2	3	4	5
ホストファミリーと十分な交流ができた I sufficiently communicated with Host-family	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ホストファミリーはフレンドリーだった My Host-family was friendly	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食事はホストファミリーと一緒に食べた I always had meals with Host-family	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ホームステイ先の食事は美味しかった Meals at Host-family are Delicious	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ホームステイ先の設備は良かった Facilities are all well equipped	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

宿舎に注文はありますか・Any Suggestions?